

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2071700310		
法人名	株式会社マイフェア立		
事業所名	サガラシルバーハウス		
所在地	長野県佐久市岩村田一本柳2213-7 (電話) 0267-67-7870		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年4月10日	評価確定日	平成20年5月9日

【情報提供票より】 (平成20年3月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 4.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	地上2階地下1階 建ての ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年3月29日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護 1	0	要介護 2	1			
要介護 3	1	要介護 4	2			
要介護 5	2	要支援 2	0			
年齢	平均	83 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・佐久総合病院	・荻原医院
---------	---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一年半前に移転したホームからは小海線を走る電車、中込の町並み、そして八ヶ岳や浅間山を見渡すことが出来る。入居者は昔からずっと見ていた風景を今は自分たちの家、グループホームから眺めている。「入居者が望むのであれば最期まで自分たちが看たい。その瞬間まで一緒にいることができれば嬉しい。」と2人の看護師と職員は願い、医師の協力をいただきながら看取りを実践している。職員らは住宅地の道路の雪かきや住民から相談があれば親身になって相談にのっている。入居者には住み慣れた場所での暮らし続けることを支援し、地域からは必要とされるホームになりたいと一生懸命に取り組まれているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	生活環境の改善に関してはホームの移転という形で改善された。一年半前までは国道沿いの既存の建物改築のホームであったが、現在は自然豊かな住宅地の高台に移転している。新しい場所からの眺めは入居者が昔からずっと見てきた風景であり、今は毎日見慣れた景色を見ながら生活している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回で3回目の評価である。全職員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りや見直しを行いサービスの質の確保、向上に役立てられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	3ヶ月に一回開催している。会議メンバーは隣組組長、町内会長、民生委員、外部ケアマネージャー、ホーム職員で構成されている。会議ではホームの活動報告、外部評価の取り組みや災害時の協力依頼などを伝えている。会議での意見や内容等は職員会議で報告しサービスの質の向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	面会時に日々の様子や健康状態などを報告し、出納帳や介護計画なども確認してもらっている。急ぎの時には電話で連絡するなど家族には詳細に報告している。家族が何でも気軽に言える関係作りに努めている。出された要望や意見は職員会議で報告し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の一員として自治会に加入し、行事や清掃活動に積極的に参加している。祇園祭りにはお神輿がホームに来たり、踊りや大正琴など住民サークルの訪問があるなど地域と交流する機会が多い。ホームの職員は道路の雪かきを行い、近隣住民からの健康相談などにのるなど地域のために出来ることを行っている。困ったときだけお願いする関係ではなく地域に必要とされるホームになりたいと努力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「人は平等であり、尊厳され、安心できる普通の暮らしを送れる権利がある」であり、運営規定では「地域に溶け込んだ施設、地域との交流が図れる施設」と定めている。地域密着型サービスの意義を全職員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲げている。職員は理念を自分の言葉で語ることができ、自分のポリシーを持っている。毎日のミーティングや朝夕の申し送り、勉強会等でサービス提供時における基本的な考えを確認し合い、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、地域のお祭りや清掃活動に参加している。祇園祭りには毎年、ホームにお神輿が来て入居者の前で披露している。ホームへの回覧板や配り物を届けてくれる方は時々ホームに上がり入居者と触れ合っている。大正琴やオカリナ、踊りのサークルの訪問もあり地元の住民と交流する機会は多い。道路の雪かきや住民からの様々な相談に答えるなどホーム側は出来ることを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りや見直しを行った。外部評価の結果は職員会で報告しミーティング、カンファレンスで話し合い改善に向け取り組んだ。生活環境の改善は移転という形で改善された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一回開催している。ホームの活動報告や外部評価への取り組みなどを報告している。会議での意見や内容等は職員会で報告し、サービスの質の向上に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の調査員や相談員の定期的な訪問がある。そのたびにホームの運営や実情を話している。市の担当者と連絡を取り合っているが、近くまで来たからと寄ってくれるので何でも気軽に相談できる関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に日々の様子や健康状態など報告し、出納帳や介護計画なども確認してもらっている。遠方で面会が難しい家族には毎月請求書を送るときにスナップ写真や暮らしぶりを知らせる手書きの手紙、出納帳や介護計画のコピーを同封している。急ぎの時には電話で連絡をしている。	○	家族向けに年2回(5月、9月)イベント時の写真編を発行しているが、更にホームの活動や暮らしの様子などを伝えるホーム便りを定期的に発行されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等は面会時や電話で家族と話すときには必ず「要望など何かありませんか」と声をかけている。どんなに小さなことでも出された要望や意見は職員会議で報告し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による対応を重視している。職員はほぼ全員が3年以上変わっていない。やむを得ず職員が替わる場合はホーム内の雰囲気が変わらないように努めている。入居者には包み隠さず伝えているし、早く馴染みの関係になるように1～2週間紹介を続けるという。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
ホーム内					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育マニュアルがあり入社時にそれに沿い指導している。働きながら分からないことは聞いたり調べたりとお互いに刺激しあい学んでいる。また、学習会では職員が講師・アドバイザーとなり職員のレベルアップに取り組んでいる。外部研修には交代で参加し、参加後は報告やレポート、資料を提出し内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域のグループホーム協議会に加入している。2ヶ月に一回の勉強会や相互訪問研修等を通して参加者は刺激を受けたり得ることも多く、日々のサービスや人材育成に活かされている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には何度か見学してもらいホームの雰囲気に馴染んでもらってから利用を開始している。また、職員は自宅や入院先などへ出掛けて顔なじみの関係作りをしている。病院のカンファレンス（医師、師長、ケアマネージャー、地域包括センター、医療相談員など）に参加して入居希望者の情報収集もしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に調理や掃除などしていると入居者は一寸したコツや工夫を教えてくれる。入居者が得意とすることは積極的をお願いしている。入居者と職員は一緒に物事をしながらお互いに「ありがとう」、「ごくろうさん」、「良く出来ました」など労をねぎらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は本人家族等から話を聞き把握している。入居者が希望していることやどんな暮らしを望んでいるのかまた、思い浮かべているのか毎日の関わりの中で声をかけて確認したり気持ちを汲み取り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からホームでの暮らし方の意向を伺い、本人の状況や職員それぞれの考えを出し、話し合いながら本人本位の介護計画を作成している。作成された介護計画は本人家族に説明し確認印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回見直しをしている。本人の状況が変わったり意向が変わる場合には見直し前であっても見直しを行い新たな介護計画を作成し現状に即したものになるよう努めている。	○	介護計画の遂行状況確認や本人の状況確認などのために毎月見直すことを望みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物など家族に代り付き添っている。看護師による体調管理を行っている。母親が迎えに来るまで小学校から自宅が遠い病弱な小学生を時々預かっている。小学生は入居者と一緒に絵を描いたり宿題をして過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医療機関となっている。通院が距離的に困難な場合は家族の同意の上、かかりつけ医の紹介状を持参し協力医療機関の医師にお願いしている。かかりつけ医や専門医療機関とは看護師を通し連携が密にとられている。医師の携帯番号が知らされており何時でも相談が出来、また、必要に応じ往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応マニュアル、重度化の指針があり勉強会も行っている。重度化、終末期のあり方については早い段階から家族等に話し意向を確認している。状態に変化があるたびに家族、医師、看護師、職員が話し合い、全員で方針を共有している。ターミナル支援は家族利用者の意向に沿いながら実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「声かけや接遇が入居者一人ひとりに適したものであったのか」ミーティングや申し送り、職員会議などで確認している。全ての職員は個人情報の保護を理解し、守秘義務の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が「普通の暮らし」、「いつもと同じ暮らし」が継続できるように一人ひとりのペースを大切にしている。散歩や入浴、買い物など一日のおおまかな予定はあるがその時の気分や体調に配慮しながら柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の料理や入居者の好物などを取り入れている。買物、調理の手伝い、片付けを入居者と一緒に行っている。入居者の状態に合わせて職員が横に座り、テーブルを囲んでいる他の入居者にも声をかけながら楽しい雰囲気できしあうよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時の不安感や羞恥心を汲み取りながら入居者が希望した時に気分良く入浴できるように支援している。一人で入浴が困難な入居者は職員が抱きかかえながら一緒に浴槽に入るなど、心のこもったケアを実践している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事を中心に入居者の力が発揮できる場面作りをし生き甲斐のある暮らしになるよう支援している。入居者が得意なことをする時は目が輝きとてもいい表情になると伺った。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺を散歩し季節を感じてもらっている。外出が困難な入居者は車椅子に乗り広いベランダで過ごしてもらっている。五感への刺激や心の変化を感じ取ってもらえるように外出支援は積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵を掛ける状況が生じたときには入居者家族に説明をして同意を得ている。現在は離設の入居者の状態をアセスメントし玄関のみ施錠している。職員は鍵を掛けない暮らしの意義を理解し開錠に向けた話し合いも繰り返し行っている。		

サガラシルバーハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一回夜間想定での避難訓練を行っている。また災害対策マニュアルでの指導も行っている。隣組の会合に出席の際には災害時の協力をお願いしている。今後は消防署や住民参加の避難訓練を予定している。消火器の取り扱い、避難経路を職員は熟知している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や水分量を毎日記録している。職員はおおまかに一人ひとりの摂取状況を把握している。入居者の状態に応じた食形態で対応し十分な栄養摂取ができるよう取り組んでいる。栄養状態やバランスについては医師や栄養士からアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、居間など建物全体に木材がふんだんに使われている。居間にはドッシリとしたテーブルがあり入居者と職員が豆の選別をしていた。居間の前にはかなり広いウッドデッキがあり天気の良い日にはそこでお茶を頂くこともある。入居者は眼下に広がる町並みや山々、若い頃通勤で乗った小海線などを眺められる。居間やデッキは皆のお気に入りの場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には使い慣れた日用品や家具、家族写真などが持ち込まれ、一人ひとりが安心して過ごせるような居室作りがされていた。居室からも八ヶ岳や里山が見える。		

※  は、重点項目。